

2025 年 10 月 8 日
日本船主協会 企画部

世界港湾会議 2025 in 神戸
～長澤会長が国際海運の観点から講演～

10 月 8 日(水)、兵庫県神戸市において国際港湾協会（IAPH）が主催する「世界港湾会議 2025」が開催されました。本年は、国際港湾協会が設立 70 周年という節目を迎える記念すべき年であり、同協会ゆかりの地である神戸に世界各国より約 650 名の港湾関係者が集いました。

本会議には、当協会の長澤会長が登壇し、今後の外航海運における課題として「GX」、「DX」の二本柱を取り上げ、これらの取組を推進していくためには、船社のみならず港湾分野との緊密な連携・協力が不可欠である旨を強調いたしました。

具体的には、まず、「GX」の取組として国際海事機関（IMO）が 2050 年までに外航海運の温室効果ガス排出を実質ゼロとするロードマップを掲げていることから、我が国海外航海運業界はこれに対応すべく、海事クラスター一丸となって取り組んでいる次世代燃料船の事例や、日本郵船が海外港湾で取り組んでいる洋上風力発電や再生可能エネルギーの導入計画等を紹介いたしました。



登壇する長澤会長

また、「DX」については、「安全第一」の信条の下、世界的に不足している船員問題への対応や安全面の更なる向上として、日本財団が主導する無人運航プロジェクト「MEGURI2040」の概要を説明いたしました。

結びに、「GX」は港のゼロエミッション船の燃料供給インフラの整備が不可欠であり、

「DX」においても自動運航船実現は、船は港と港を結んで航行するという本来の性質が変わらない以上、受け入れ側の港湾の整備は不可欠であることから、これら海運業界の「GX」、「DX」実現に向けた課題は個別企業、ひいては海運業界だけでは実現できないため、海運業界と港湾業界が互いに協力し、課題解決に取り組むことこそ、これからの時代に一層求められていることを説明いたしました。



場内風景